発達障害

発達障害とは

「発達障害」とは、中枢神経系の障害のため、生まれつき認知やコミュニケーション、社会性、注意力、学習等の能力に偏りや問題を生じ、社会生活に困難をきたす障害のことをいいます。困難さは修学や対人関係、普段の行動等、日常生活の様々な場面で生じますが、同じ障害名でも特性の現れ方が一人ひとり異なる上、複数の障害を重複していることもあり、個別性が高いことが大きな特徴です。また、同じ人の中でも、特性の現れ方が環境的・経年的に変化し、その日の気候や体調等にも影響を受けることがあるため、支援の必要性や内容が状況によって異なります。

主な障害名と特性

自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害(ASD)

- 社会的コミュニケーションや状況理解の困難さ
  教員の指示の意図がわからない　雑談が苦手　場にそぐわない言動をする　等
- 同じ状況や決められたことへの強いこだわり
  急な教室変更があるとパニックになる　一度でも授業を欠席すると行けなくなる　完璧でなければ課題や試験を提出できない　等
- 感覚刺激に対する過敏さまたは鈍磨
  周囲の学生の声や機械音に対する苦痛により通常の教室で受講できない　自分の疲労度がわからず体調を崩す　等

注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害(ADHD)

- 不注意
  不注意によるミスが多い　集中力が続かない　提出物が期限に間に合わない　物事の優先順位がつけられない　等
- 多動性および衝動性
  順番を待てない　衝動的で余計なことをついしてしまう　等

限局性学習症/限局性学習障害(SLD)

- 全般的な知的発達に遅れがないのに、「聞く」「話す」「読む」「書く」「推論する」「計算する」のいずれか、あるいは複数に著しい困難がある
  ノートをとるのに時間がかかる　何度も読み返さなければ意味を理解できない　思考を書き出すと内容が乏しくなる　等

発達障害のある人の困難さ

困難なこと

発達障害は器質的な障害があるわけではないため、見た目にはわかりにくい障害です。また、障害の有無の境界が明確でなく、どこまでが障害による特性でどこからが本人の個性(性格)や能力の問題なのか区別がつきにくいところがあります。特に、大学に進学している人においては特性が目立ちにくくなっていることも少なくありません。反対に、高校生までは問題が目立たず、大学入学後の環境の変化につまずいて混乱し、一人で抱え込んでしまうこともあります。このように、発達障害は周囲だけでなく本人も障害があるかどうかを自覚しづらく、本人の努力不足とみなされて必要な理解や支援が受けられていないケースもあります。また、問題は特性と環境との相互関係によって生じることが多いため、支援につながったとしても、どのような場合に・どのような支援が・どの程度必要なのか、本人でも判断が難しいことがあります。これらのことから、発達障害のある学生は不安や葛藤が生じやすい上、それを適切に表現することが難しいため、様々な二次症状(身体症状や抑うつ、不安、強迫症状等)を引き起こし、精神障害を併発する場合もあります。

支援について

発達障害のある人への支援

発達障害のある学生の支援では、長所や得意なことと障害特性に起因する困難さの両方を視野に入れることが大切です。また、環境や条件によって困難さの内容や程度が異なることにも留意する必要があります。そのため、個別の支援や環境調整の内容や方法は、本人を含めた話し合いの場で、本人が具体的なイメージを持ちながら決定できるようにし、定期的に見直しを行うことが求められます。

また、発達障害は複数の障害を重複することも多く、それぞれの境界が曖昧になることもありますが、診断名にあまりこだわりすぎず実際の場面で役に立つという視点で考えることが大切です。一方で、一見すると同じ問題であっても、背景にある要因によって必要なアプローチが異なるため、適切なアセスメントに基づいて支援を考える必要があります。

さらに、卒業後の就労場面を見据えて、学生が必要な支援を自ら要請できる力(セルフアドボカシー)を育てることも必要です。そのために、日々の面談や他機関(学内の相談室や学外の支援機関)との連携の中で、学生自身の特性や必要な支援について話し合いを重ね、理解を深めていくことが大切です。

困難さと支援の例

	修学上の困難さ	希望する支援や配慮
講義	履修計画が立てられない	→ 履修登録時のサポート
	自分に適した授業が選択できない	→ シラバス内容の具体化
	話を聞きながらノートを取ることが困難	→ 講義内容の録音許可、PC持ち込み許可
	決まった席でないと落ち着かない	→ 座席配慮(座席位置を指定)
演習・実験	自分の意見が言えない/言い過ぎる	→ 議論のルールを明示する
	質問に答えられない	→ 具体的に質問する/回答の順番を後にする
	課題や卒論のテーマが決められない	→ 担当教員との綿密な面談
	急な変更に対応できない	→ 連絡事項の伝達方法の工夫
	手順を理解できない	→ わかりやすい手順説明資料を作成
試験・評価	集団の中で試験が受けられない	→ 別室受験、入退室の許可
	文字を読む・書くのが困難/時間がかかる	→ 試験時間の延長、PC等使用許可
	期日までに課題を提出できない	→ 作成手順の確認・計画、提出期限の延長
学生生活	自分に必要な支援を説明できない	→ 特性や必要な支援の整理、支援要請スキルの育成
	自分の特性を受け入れることに葛藤がある	→ 専門機関(学内の相談室、学外)と連携
	対人関係や集団活動(サークルや寮等)に問題が生じる	→ 周囲の理解と本人への助言、専門機関(学内の相談室、学外)の活用